

# 2021年度三木町×香川大学 健やかあすなろプロジェクト報告書

香川大学医学部衛生学 鈴木裕美、宮武伸行

香川大学インターナショナルオフィス、医学部薬物生体情報学 徳田雅明

## 1) 実施概要

2013年度から5年間、COC（Center of Community、地（知）の拠点整備事業）で三木町、松原病院と連携しながら香川大学医学部と共同で展開する事業として、「健やかあすなろプロジェクト～児童の糖尿・肥満撲滅プラン」を提案、実施してきました。

2018年度からは新たな5年計画、「新健やかあすなろプロジェクト」として、三木町子育て支援事業〈子育てプログラムをすべての親に～子育ての予防接種を～〉を展開しており、本年度は4年目の活動でした。従来の活動に加えて、以下の表に挙げた、「11. ハイスクールプロジェクト」と「12. 要対協スタッフ支援」を追加して実施しました。

## 2) 実施報告

三木町の未就学児をもつ親だけでなく、小学生や中学生の保護者を対象に、子育ての方法を学ぶ機会を繰り返し提供することで、子どもが安心して育ち、能力を十分発揮できる子どもの養育環境を整えることを目的に様々な活動を実施しました。以下に、2021年度計画案と実際に行った事業内容を示します。

	2021年度計画	2021年度実施内容
1. 単発の子育て講演	実施検討	5回実施
2. 連続子育て講座トリプルP	香川大学医学部で実施検討	実施せず
3. 子育てビデオ・テキスト貸出	貸出継続	実施せず
4. 子育てリーフレット作成	配布継続、6000部増版	配布継続、8000部増版
5. トリプルPファシリテーター育成	県内での研修を継続	予定通り実施
6. 不登校児のためのフリースペース	実施継続、週2日検討	実施継続、2月より週2日実施
7. 保護者や支援者のためのフリースペース	対面継続、月1回オンラインで親の会開催	オンライン親の会実施、相談室の整備、SCの相談会開催
8. あすなろ文庫	実施継続	予定通り実施
9. ネット依存症・睡眠・心の調査	フォローアップを検討	実施せず
10. 子育てポスター作成	偶数月に計6回発行	偶数月に5回発行
11. ハイスクールプロジェクト	三木中に所属する不登校児とのFS外活動	高校進路紹介冊子を作成
12. 要対協*スタッフ支援 *要保護児童対策地域協議会	毎月1回程度、スタッフとケース対応について相談実施	6, 7月のみ実施

## 1. 単発の子育て講演

三木町保育士研究会（全8保育所）の年齢別研修会（0歳児、2歳児、4歳児の3回）に講師として参加しました。また、第69回全国国公立幼稚園・子ども園教育研究協議会香川大会で研究発表をする三木町4幼稚園の研究指導を行いました。睡眠に関するアンケート調査の作成およびデータ解析、保護者へのフィードバックの他、Zoomで職員及び保護者に向けて睡眠に関する講演を行いました。研究の一環で家庭に対して睡眠介入プロジェクトを実施し、その結果を発表できるよう支援しました。事前の地域大会では、研究助言者としても講演を行いました。

## 2. 連続子育て講座トリプルP

2022年1月から予定していましたが、コロナの感染拡大をうけ、キャンセルが相次ぎ、参加者数が十分でなかったため、延期としました。

## 3. 子育てビデオ・テキスト貸出

2の延期に伴い、貸出ありませんでした（講座内での貸出のため）

## 4. 子育てリーフレット作成

2の延期で予算に余裕ができたため、計画より2,000部増やし8,000部の増刷としました。三木町の健診や講演時に配布する予定です。

## 5. トリプルPファシリテーター育成

高松で開催したトリプルPでファシリテーターを務めた経験の浅い方に、講座前にZoomを用いて事前練習を何度か実施し、講座後にフィードバックをしました。また、効果的な指導方法についても話し合い、適宜実践しました。

## 6. 不登校児のためのフリースペース（添付1、2）

今年度も男性の元中学校教師の方が子ども指導員として来てくれました。今年度は48日開催し、のべ283人が参加（児童が81名、保護者72名、見学者39名（地域の大人・幼児、三木町内教師、通信制高校教師、ペアレントメンター、県教委）、スタッフ（運営委員や指導員）96名）でした。活動内容は外遊びや卓球、カードゲーム、粘土遊び、パズル、料理（かき氷やチョコレートバナナ、パンケーキ、おもち、焼き芋など）、工作（フォトフレーム・リース作り）でした。

利用者への周知や促進が課題となっています。そのために（1）広報みきを用いた周知を2021年6月より毎月しています（添付1）。（2）第2火曜日はイベントの日とし、おやつ作りや工作を行っています。スクールソーシャルワーカーがイベントの手伝いや不登校児を家庭訪問し、フリースペースに誘っています。（3）要対協スタッフ支援に配置していたスクールカウンセラーを月に1

回フリースペースでのカウンセリングにあてました。子どもの不登校相談者に来てもらうことにより、フリースペースの周知にもなり、参加促進につながりました。(4) 2022年2月からは週1回(火曜日)から2回(火・木曜日)の開催に増やしました(火曜日は三木町教委、木曜日はあすなろ事業費から指導員謝金を捻出)(添付2)。

2021年7月には三木中学校でフリースペース運営委員会、2022年3月には小中連絡協議会にて不登校生徒の情報共有をし、フリースペースの周知や参加促進の方法について話し合いました。また、白山文化センターでの面談や電話、メールなどで運営委員間の情報共有を密にし、親子のサポートに努めました。

## 7. 保護者や支援者のためのフリースペース

### (1) 相談業務(添付3)

鈴木が保護者からの相談を受ける以外に、12の業務に携わっていた中村スクールカウンセラー(SC)が2021年10月、12月、2022年2月、3月の4回、フリースペースにて子どもの不登校について悩む保護者の相談業務を実施しました。その後、親子のフリースペース利用につながりました。

また、プライバシー保護の目的で相談室を新たに準備する必要があったため、白山文化センターの6畳和室に家具や本棚を購入して相談室としました。保護者からは落ち着いた空間で話しやすいと評判です。

### (2) ペアメンCafé in 三木町(添付4)

相談業務の一環として、ペアメンCaféを2回開催しました。

ペアメンCaféとは、NPO法人ペアレントメンターかがわが県の委託事業として実施している、発達障害や不登校の子どもを育てる親同士の「語り合い相談の場」です。ペアレントメンターは、同じ悩みを持ちながら子育てしてきた先輩ママさん・パパさんが研修を受け、メンター(支援・指導者)となった人たちです。ペアメンCaféは東讃地域では高松市を除いて今回の三木町だけです。県の事業としても意義深い開催でした。

フリースペースに相談に来られる親御さんのお子様は、発達障害や不登校で悩まれる方が多いので、様々な家庭やメンターと交流し、悩みを共有・相談できたのは参加者にとって大きな一歩だったのではと感じます。みなさんが2時間気持ちを吐き出し、泣くだけ泣くと、帰る頃にはとてもすっきりした表情となっているのが印象的でした。

第1回目は7月6日(火)に白山文化センターにて参加者8名、ペアレントメンター3名で開催しました。第2回目は11月27日(土)に防災センターにて、参加者8名、ペアレントメンター5名、NPO法人親の育ちサポートかがわスタッフ3名で開催しました。

### (3) オンラインでの親の会開催（添付5）

保護者や支援者を対象とした学びとコミュニケーション（子育ての悩み相談も含む）の場として、毎月1回Zoomにて開催し、6月からは思春期をテーマにした会も開始しました。詳細は、地域環境保健福祉研究（香川大学医学部発行の学会誌）に「Zoomを用いた子育てチャットルーム：赤ちゃんから思春期の子どもを育てる親のために」（添付1）にて報告しました。今年度は11回開催し、参加者はのべ114名（参加者74名、スタッフ40名）でした。

開催月	曜日	テーマ	参加者	スタッフ
2021年5月	(火)	よい行動の促し方とほめ方	8名	6名
2021年6月	(土)	思春期を考えよう Part 1 心身の変化と発達上の課題	5名	2名
2021年7月	(土)	よい行動の促し方とほめ方	7名	3名
2021年8月	(土)	思春期を考えよう Part 2 自己確立の3つの課題と親の役割	3名	2名
2021年9月	(土)	子どもとゲーム	4名	2名
2021年10月	(土)	思春期を考えよう Part 3 有効なコミュニケーション方法	7名	2名
2021年11月	(火)	子どもとよい関係を築く	9名	6名
2021年12月	(土)	思春期を考えよう Part 4 親離れを促す「脱お世話がり」	6名	2名
2022年1月	(木)	男女の脳の違いについて	6名	8名
2022年2月	(土)	思春期を考えよう Part 5 自分探しを促す子どもとの関わり	10名	2名
2022年3月	(火)	よい睡眠の取り方について	9名	5名

### 8. あすなろ文庫（添付6）

2019年度86冊、2020年度130冊に引き続き、今年度は83冊を購入しました。今年度の貸し出し数は、のべ75人、143冊でした。メタライブラリー（三木町図書館）へは48冊（2020年度40冊）を移動しました。

### 9. ネット依存症・睡眠・心の調査のフォローアップ調査

昨年度、ネット依存症・睡眠・心の調査を三木町で実施したので、フォローアップ調査を検討する予定でしたが、他の事業との兼ね合いで実施ができませんでした。

## 10. 子育てポスターシリーズ作成（添付7～11）

去年度と引き続き、体罰せずに子育てする方法や考え方を体系的に提供することを目的に、子育てポスターを作成しました。ポスターの右下にQRコードを設け、NPO法人親の育ちサポートかがわのホームページにある「子育てポスターシリーズ」のメニューにアクセスできるようにしました。そこで、ポスターの内容説明を詳しくしています。ポスターは三木町の「健やかあすなろプロジェクト」の成果物として、全市町の保育園や幼稚園、子ども園に大学から配布されました。ポスターは2ヵ月に1回発行、全12号を作成する予定です。作成後はカレンダーにして新小学1年生や中学1年生のご家庭に配布したいと考えています。

今年度は以下の表に示すようにポスターNo.4～8の5つのポスターを作成しました。毎回600枚程度を県内の教育機関、小児科外来、子育て支援センター等に配布しています。No.7を出すまで6か月かかったのは、ハイスクールプロジェクトの冊子作成があったためです。

ポスターNo.	発行日	ポスターのタイトル
1	2020年10月	子どもの自信とやる気を育てる
2	2020年12月	子どもの信頼感を育てる
3	2021年2月	親じゃない自分も大切にする
4	2021年4月	子どもの居場所をつくる
5	2021年6月	子どもの意思を育てる
6	2021年8月	子どもの好奇心と積極性を育てる
7	2022年2月	一貫したしつけでルールを教える
8	2022年3月	子どもをほめる
9～12	2022年度発行予定	

## 11. ハイスクールプロジェクト（添付12）

フリースペースは不登校生徒にとって居場所となるものの、一時的であり、将来に対する不安や悩みがなくなるわけではありません。生徒が自分の将来に対して希望を持ち、主体的に進路を模索できることが課題だと思いました。そこで、フリースペースに通う生徒が中学校卒業後の進路は多種多様にあることを知り、選択することにワクワクする体験をしてもらうために、全日制高校以外の進路について生徒と一緒に調べ、冊子にする活動（ハイスクールプロジェクト）を企画しました。

実際には高松市内のフリースペース運営者やNPO法人ペアレントメンターかがわの理事、スクールソーシャルワーカーをはじめ、三木町民の方々にスタッフとなっていただき、冊子の作成を行いました。掲載高校の選出、各高校へ原稿執

筆の依頼状送付、電話・訪問による執筆依頼、原稿フォーマットの送付、原稿のやり取り、編集作業、体験談執筆依頼、各テーマにおける原稿執筆、表紙イラスト作画依頼、不登校新聞の転載記事選出など多くの仕事を手分けして行いました。

冊子には生徒への応援メッセージ、保護者へのアドバイス、学校選びのコツ、失敗しない学校の選び方や見学の際のポイント、高卒認定試験などに加え、多くの体験談を掲載しました。「単なる学校紹介ではなく、複雑な学校形態やスクーリングの制度など、わかりやすく図説、解説されていてよくわかった」、「子どもも楽しみながらアルゴリズムを用いて、進路について考えることができた」、「こういう冊子がほしかった」と多くの保護者や生徒、支援者の声を頂きました。

冊子は、2021年10月に初版1,500部を発行し、香川県の全中学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、県教委、市町教委、適応教室、フリースクール、フリースペースなどの教育機関の他、県立図書館、小児科・メンタルクリニック、児童相談所、社会福祉協議会、民間子育て支援機関など幅広く配布しました。大変好評であったため12月にはで2,000部を増刷しました。健やかあすなろプロジェクトの事業費を用いて、三木中学校、町教委、子ども課、メタライブラリー、民間施設など400部を配布しました。その他は香川大学の研究費から賄いました。

## 12. 要対協スタッフ支援

今年度より開始した事業で、三木町子ども課の明石、要対協スタッフの木村、漆原、阿部（敬称略）4名を中村スクールカウンセラー（三木中、氷上小、平井小担当）と鈴木が支援する形で行いました。1回1時間半のミーティングで、事例検討と今後の対応について相談しました。要対協は、学校から要支援家庭を紹介され、その家庭に電話や訪問で状況を確認し、見守りながら必要な支援につなげていく役割を担っています。しかし、普段関わっていない行政から連絡があっても、信頼関係を構築するのが難しく、効果的な情報収集や介入ができにくいという課題がありました。

そこで、学校と行政、家庭の間にスクールカウンセラーを置くことで、家庭に相談を受けたスクールカウンセラーが情報収集を行い、学校・行政とこのような会を通して情報共有ができます。学校もその情報を基に生徒への対応ができ、行政もまた、タイミングを見計らいながら効率よく介入ができると考えられました。また、スクールカウンセラーが家庭のニーズに合わせてフリースペースなどのリソースの紹介などもでき、支援先を広げていくこともできますし、行政もまた役場外のサービスについて知る機会になると考えられました。このように連携していくことの重要性について合意に至りました。

今年度はミーティングを2回開催し、要対協スタッフから中村SCと鈴木に個別連絡・相談が適宜ありました。要対協スタッフからはこのような会を通して連携できたことは有益であり、スーパーバイズとしては適当な回数であったとの報告を受けています。

FAX / 86111566  
メール / kshikaku@beach.ocn.ne.jp

### 香川県東部清掃施設組合職員の採用試験

内 香川県東部清掃施設組合では、令和4年4月1日採用予定の採用試験を実施します。

試験区分 / 一般行政職(大学卒)若干名  
受付期間 / 5月19日(水)～6月15日(火)  
郵送の場合6月15日(火)必着

※受験資格等の詳細については、香川県東部清掃施設組合のホームページで確認してください。(さぬき市、東かがわ市および三木町ウェブサイトにもリンクがあります。)

問 香川県東部清掃施設組合事務局庶務係  
☎0879-15312001

### 『宅配店マップ』の仲間に加わりませんか

内 宅配店マップに掲載を希望する新規店舗を募集します。宅配できる店舗の人、高齢者のお力になりたい事業所の皆さま、ぜひご協力お願いします。

他時 7月30日(金)  
宅配店マップは、訪問が可能な商店の一覧表です。お店の方に配達していただくことにより、地域で見守りを行い、高齢者の安定した在宅生活を送れる一助となればと作成しています。令和3年4月現在、衣・食・住・理美容やメガネ・補聴器等のお店45店舗が登録されています。

問 地域包括支援センター  
☎89113321(内線1314)

### 県営住宅入居者募集

内 募集月 / 6月、9月、12月、3月(各月1日～10日頃)  
募集団地 / 左記連絡先にお問い合わせください。

入居資格 / 次のすべてに該当する方  
①住宅に困窮している  
②同居親族、または同居しようと

する親族がいる  
③収入が所定の基準に該当している  
④県税などの滞納がない  
⑤暴力団員でない

問 あなふき公営住宅コンソーシアム  
(香川県営住宅管理センター)  
☎833213587

## 催し

文化交流プラザ ☎898-9222

### メタ・ライブラリーからのお知らせ 雑誌リサイクル

内 メタ・ライブラリーで使用した平成30年6月号の雑誌を1人1冊までお持ち帰りいただけます。  
時 6月6日(日) 午前9時30分  
所 メタ・ライブラリー内

### 6月のおはなし会 どんぶりクラブのおはなし会

時 6月12日(土)  
午後2時～午後2時20分  
所 メタ・ライブラリー内おはなしコーナー  
人 5組(当日先着順)  
※中止になる場合がありますので、ホームページをご確認ください。

池戸公民館 ☎813-9853

### アートギャラリー展示案内

アイラブ三木第33回写真展 / アイラブ三木  
時 6月1日(火)～6月13日(日)

宮月書道会展と刻字倶楽部展の合同展 / 宮月書道会  
時 6月23日(水)～6月27日(日)

## 三木町×香川大学 健やかあすなるプロジェクト ～子どもを育てるあなたを応援する活動をしています～

### 学校以外に居場所がほしい子のためのフリースペース

場 所 白山文化センター  
日 時 毎週火曜日 13:00～15:00  
対 象 三木町に住む小中学生  
活 動 外遊び、おやつ作りなど自由  
※学校の出席日数へ加算されます。  
※小児科医に無料相談できます。(予約制)

6月8日(火)はフォトフレームづくりをします。参加費は無料!!  
自分だけのフォトフレームを作ってみましょう。



### オンライン子育て交流会

Zoomを使ってテーマについて学んだり、おしゃべりしたりします。Zoomが初めての人は事前に練習できます。お申込み完了後にZoomのURLをお送りします。最初は聞いているだけでもOKです。

6月19日(土)20時～21時

テーマ「困ってませんか? 思春期を考えよう」  
小児科医や、スクールソーシャルワーカーによる話と、参加者みんなでのおしゃべりを楽しみましょう。

### メタ・ライブラリーと白山文化センター あすなる文庫

子どもの心と体、発達障害、不登校、思春期、ネット・ゲーム、子育て、夫婦問題、性教育、子連れ離婚、虐待、絵本、小説など幅広く本を集めています。



NPO法人親の育ちサポートかがわ

申込・問い合わせ先 NPO法人親の育ちサポートかがわ(香川大学 鈴木 9:00～16:00) ☎891-2465

学校の出席日数に加算されます

## 親子のための フリースペース



- 日時** 毎週火曜日・木曜日13:00～15:00
- 場所** 白山文化センター（三木町下高岡2150-1）
- 対象** 三木町内の小中学生・保護者
- 活動** 卓球、ダーツ<sup>添付1</sup>、外遊び、パズル、工作  
カードゲーム、映画鑑賞、おやつ作りなど
- 相談** 保護者がスクールカウンセラーや小児科医  
に無料で相談できます（要予約）



～お問い合わせ～

NPO法人親の育ちサポートかがわ

Tel: 087-891-2465（香川大学医学部内 鈴木）

Mail: [oyasapo\\_kagawa@yahoo.co.jp](mailto:oyasapo_kagawa@yahoo.co.jp)



おやさほ  
親の育ちサポートかがわ







## あすなろ相談室

テーブルと 4 脚の椅子、本棚を置いています。本棚には、保護者・支援者用の本を置いてあり、おすすめの本はディスプレイ棚に設置しています。



壁には、子育てポスターシリーズのポスターを貼る予定です。

また、「どこでもシート」(壁に貼っている写真の白いシート)を用いて、水性マーカーで板書をすることもでき、話し合いに役立てることもできます。

NPO法人ペアレントメンターかがわ 三木町×香川大学「健やかあすなるプロジェクト」

ジョイント企画

## ペアメン Cafe in 三木町

我が子のこと！我が家の未来のこと！  
私たちペアレントメンターとカフェしながら  
語らいませんか？

2021.7.6(火)

13:00～15:00 参加無料

会場：三木町白山文化センター（三木町下高岡 2150-1）

対象：発達気になる子ども、発達障がい、障がいのある等の  
子どもを育てる保護者

【申込み方法】お申込みは、下記のいずれかにお申込み下さい。

## NPO法人ペアレントメンターかがわ宛にお申込みの場合

ペアレントメンターかがわウェブサイトの「お問い合わせ」フォーム  
またはメールにてお申し込み下さい。お申し込みの際には、必ず「7  
月5日ペアメンCafe参加希望」と明記したうえで①～⑤の内容をお  
送り下さい。①氏名、②メールアドレス、③携帯電話番号、④子どもの年  
齢・性別・発達状況、⑤居住地（市町名のみ）。

## NPO法人親の育ちサポートかがわ宛てにお申込みの場合

親育ちサポートかがわウェブサイトの「お問い合わせ」フォーム  
またはメール、お電話にてお申し込み下さい。

メールアドレス:oyasapo\_kagawa@yahoo.co.jp

電話 :087-891-2465



## ペアメンCafeってなあに？

発達気になる我が子を持つ家庭は、どうしても孤立して、子育て  
をしている家庭が少なくありません。子どものことを思っている、な  
ぜかイライラしてしまう。無意識に、子どもや家族に、そのイライラを  
ぶつけてしまう。どうしてなんだろう。家庭だけで抱え込まず、家庭が前進していくために、同じ境遇を持  
つペアレントメンターから子育ての悩みや我が子への思いを、周囲の  
目を気にせずに語り合う。そして湧いてくる思いを語り合いながら、様  
々ある子育ての工夫を知ること、悩みが小さくなる効果を実感でき  
るのがペアメンCafeです。「ペアレントメンターとCafeしよう」をコン  
セプトにペアレントメンターかがわが県内各地域で開催しています。共催 NPO 法人ペアレントメンターかがわ  
三木町×香川大学「健やかあすなる」プロジェクト

後援 三木町



NPO 法人ペアレントメンターかがわ

080-2978-8304

info@pmentor-kagawa.org

www.pmentor-kagawa.org

NPO 法人親の育ちサポートかがわ

087-891-2465

oyasapo\_kagawa@yahoo.co.jp

oyasapo.wordpress.com

お問い合わせ

Zoomを用いた子育てチャットルーム：  
赤ちゃんから思春期の子どもを育てる親のために

鈴木 裕美, 小鹿 えり, 嵐田 史子, 高橋 淑子, 石川 恵子, 神田かなえ, 宮武 伸行

## Zoomを用いた子育てチャットルーム： 赤ちゃんから思春期の子どもを育てる親のために

鈴木裕美<sup>1, 2)</sup>, 小鹿えり<sup>2)</sup>, 鳶田史子<sup>2)</sup>, 高橋淑子<sup>2)</sup>, 石川恵子<sup>2)</sup>, 神田かなえ<sup>2, 3)</sup>, 宮武伸行<sup>1)</sup>

### 要旨

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、対面による子育て支援事業が制限されることが多くなった。香川大学と三木町が行っている子育て支援事業「健やかあすなるプロジェクト」の一環でオンライン（Zoom）を用いた子育て支援を計画した。保護者同士の交流だけでなく、トリプルP（前向き子育てプログラム）の子育て技術を用いた学びの場である「子育てチャットルーム」を提供した。2020年6月より毎月1回1時間、トリプルPファシリテーターを中心に行い、構成は10分のパワーポイントを用いたセミナー、30分の小グループ交流会、20分の全体のまとめである。2020年9月からは三木町内の子育て支援拠点「育ちの部屋」も参加することとなった。2021年6月からは思春期について考える子育てチャットルームを隔月で開始した。ファシリテーションの難しさ、有効な周知方法や参加しやすい日時を選択、わかりやすい教材づくりなど課題も多いが、新たな子育て支援の方法として新規的かつ意義深い活動である。

Key Words：オンライン，子育てセミナー，子育て交流会，子育て支援，トリプルP

### I. はじめに

香川大学は地域に根ざす大学として地域社会への貢献を目指している。香川大学医学部は香川県木田郡三木町（人口約27,000人）に位置し、三木町とは深い関りがある。2018年度から大学が三木町における子育てに関する様々な課題に対する支援を行う「健やかあすなるプロジェクト」を町の補助事業として実施している。当プロジェクトの目的は、すべての親に子育てについて学ぶ機会を提供することで、子どもの健やかな成長を促す家庭環境を整えることである。

2020年度は当初、対面による講演会やペアレントトレーニング（以下、ペアトレ）、親同士の交流会などを計画していた。しかし、コロナ禍のためそれらは中止せざるを得なくなり、「何とか親

が子育てについて学ぶ機会を提供できないか」、「親同士が交流することで得られる安心感を何とか生み出すことができないか」を模索した。少ないながらも、いくつかの民間支援団体が取り入れ始めていたオンラインによる子育て支援<sup>1)</sup>にヒントを得て、子育てについて学ぶセミナーと保護者同士の交流を同時に行うZoomを用いた「子育てチャットルーム」を計画した。

Zoomはどのデバイスからでも簡単にWeb会議の主催や参加が可能なサービスである<sup>2)</sup>。メリットは多地点から参加できること、ボタン1つで小グループに分かれて話し合いができること、チャット機能を用いて文章をタイムリーに送受信できること、録画機能があることなどである。デメリットは対面と異なり、慣れないと話づらい、カメラをオフにしていると顔も見えない、場の雰囲気捉えづらく進行が難しいなどが挙げられる。

これらの活動は、筆者が運営するNPO法人親の育ちサポートかがわが全面的にバックアップしている。本NPOではトリプルP<sup>3)</sup>というペアトレを定期的に開催している。トリプルPとは、

1) 香川大学医学部衛生学

2) 特定非営利活動法人親の育ちサポートかがわ

3) 香川大学医学部公衆衛生学

連絡先：〒761-0793

香川県木田郡三木町池戸1750-1

香川大学医学部衛生学

鈴木 裕美

Positive Parenting Programの略称で日本では前向き子育てプログラムという。認知行動療法の理論に基づいた家族への教育的介入プログラムで、良好な親子関係の構築と子どもの問題行動の改善を目的に、8週間のグループ学習を行う。オーストラリアで開発され、無作為化比較試験を用い、その有効性はこの30年間の研究で十分に実証されてきた<sup>4)</sup>。

このトリプルP受講者のフォローアップを兼ねながら、子育て中の方々にトリプルPの子育て技術をを紹介することは有益であると考えた。コロナ禍による生活の変化がストレスとなり、余裕を持った子育てが難しく、社会問題にもなった<sup>1)</sup>。このような時期だからこそ、もう一度トリプルPを学び直す、またはトリプルPの技術を新たに学んで家庭内の危機を乗り越えることが大切である。

そのため、セミナーの内容はトリプルPで扱う17の子育て技術と子育て五原則の中から1項目を取り上げることにした。トリプルPでは基本的にファシリテーター（以下、FT）が決められたプログラムに則って参加者の学びを促し、話し合いを円滑に、かつ建設的に進めることが求められる。そのようなファシリテーションの技術をZoomでの子育てチャットルームにも使うことができると考え、トリプルP FTに本プログラムへの協力を依頼した。

会の目的は、ペアトレとコミュニケーション

(子育ての悩み相談も含む) の場を提供することである。他の保護者を対象とした交流会では会話を楽しみ、悩みを共有し、情報交換を目的にしていることが多い。当子育てチャットルームでは、会話を楽しむだけでなく、学びを重要視した。それは健やかあすなるプロジェクトの趣旨に適合させるだけでなく、コロナ禍で生じた家庭内の困難を学びによって乗り越える力にしたいと思ったからである。そのため、会のコンセプトは「学んで納得! 話してスッキリ!」とした。

本稿では、会の構成や内容、周知方法について論じ、Zoomで会を行う際の課題や対応について考察した。コロナ禍での子育て支援として、他の地域でも検討され、実施する上での参考資料となることを期待して本件を報告する。

## II. 方法

対象は、子どもを育てる父母や祖父母、子育て支援者とした。

実施期間は、2020年6月より2021年10月で、毎月1回Zoomを用い、1時間程度の開催とした。実施日は平日午前中または土曜日午後に行った。

周知方法は、トリプルPの受講者、子育て相談をしたことがある保護者、子育て支援団体、本NPOが今までの活動で知り合った教育・福祉関係者、マスコミ関係者などに一斉メールで周知を行った(図1)。Social Networking Service (以

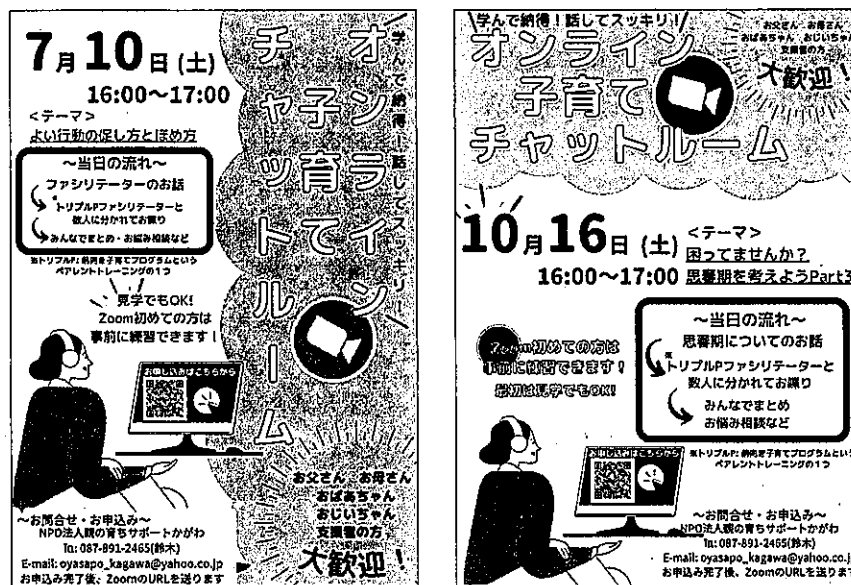


図1 周知に利用したチラシ

表1 子育てチャットルームのテーマと参加者数

回数	開催月	曜日	テーマ	参加者	スタッフ
1	2020年6月	(土)	安全・安心して過ごせる環境づくり	8名	3名
2	2020年7月	(土)	親としての自分を大切にする	8名	4名
3	2020年8月	(土)	前向きな注目：子どもを褒める	7名	3名
4	2020年9月	(水)	現実的な期待をもつ	13名	5名
5	2020年10月	(土)	一貫したわかりやすいしつけ	6名	2名
6	2020年11月	(水)	積極的に学べる環境づくり	7名	3名
7	2020年12月	(火)	子どもと良質な時間の過ごし方	8名	5名
8	2021年1月	(火)	子どもの見本になる	7名	2名
9	2021年2月	(火)	男女の脳の違いについて	10名	5名
10	2021年3月	(月)	よい睡眠のとり方	13名	5名
11	2021年5月	(火)	よい行動の促し方とほめ方	8名	6名
12	2021年6月	(土)	思春期を考えようPart 1 心身の変化と発達上の課題	5名	2名
13	2021年7月	(土)	よい行動の促し方とほめ方	7名	3名
14	2021年8月	(土)	思春期を考えようPart 2 自己確立の3つの課題と親の役割	3名	2名
15	2021年9月	(土)	子どもとゲーム	4名	2名
16	2021年10月	(土)	思春期を考えようPart 3 有効なコミュニケーション方法	7名	2名

下、SNS)ではFacebookを用いた。また、香川大学のホームページに掲載し、大学職員への一斉メールも活用した。氷上保育所の公式LINEを用いた周知も行った。筆者が出演するラジオ番組でも毎月、活動を紹介した。

内容は、トリプルPの子育て技術を紹介する他、睡眠や男女の脳の違い、ゲームとの付き合い方をテーマにした(表1)。構成(図2)は最初の10分程度でテーマに沿った内容のセミナーを本NPOの担当FTや筆者がパワーポイント(以下、PPT)を用いながら行った。PPTは担当FTが作成した場合、筆者が内容と読み原稿を確認した上で用いた。PPTは導入の共通スライド3枚以外は7スライド程度とし、最終スライドには小グループで話し合うテーマを提示した(図3)。セミナーの後、Zoomのブレイクアウトルームを用いて小グループとなり、FTが司会をしながら30分ほどテーマに沿ったディスカッションを行った。最後の20分では筆者がメインFTとなり、各グループで話し合ったことを共有し、自由に話し合い、困っていることなどを参加者全員で相談、共有した。

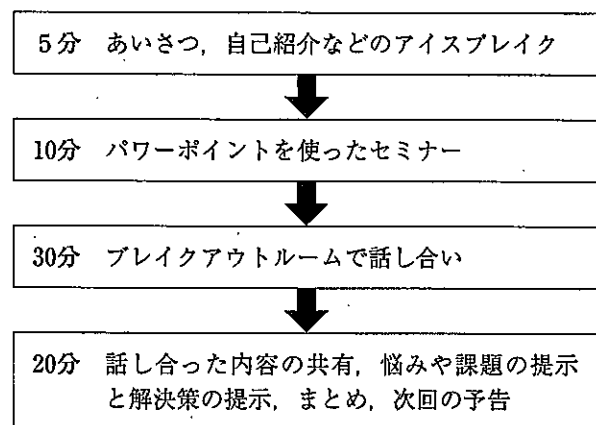


図2 子育てチャットルームの流れ

参加者からの感想やコメントは、各会の終了後にチャット機能を使って、自由記載して頂いた。また、本NPOのFTは月に1回程度開催する研修会でフィードバックを行った。

### Ⅲ. 結果

#### (1) 会の実施について

2021年10月まで16回(平日6回、土曜日10回)実施し、参加者はのべ121名(平均7.6名/回)、スタッフのべ54名(平均3.4名/回)、合計175名

 <p>子育てチャットルーム</p> <p>2021年5月25日(火) 10:30~11:30</p>    <p>1</p>	<p>お約束</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. なまえ(ニックネームでもOK)+子どもの年齢、性別</li> <li>2. 話していない時は、ミュートにしておきます</li> <li>3. 手を挙げてから話します</li> <li>4. 話し合う内容のプライバシーを大切に、外では話しません</li> <li>5. お互いに支えあいましょう</li> </ol>  <p>2</p>
<p>ぜひ、一緒に！</p>    <p>3</p>	<p>今日のメニュー 子どもの発達を促す10の技術</p>  <p>【好ましい行動を育てる 3つの技術】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもをほめる</li> <li>②子どもに注目している気持ちを伝える</li> <li>③一生涯命になれる活動を与える</li> </ol>  <p>4</p>
<p>みなさんは、ふだんどのようにほめていますか？</p> <p>いい子だね！ すごいね！ えらいね！</p>  <p>5</p>	<p>みなさんは、ふだんどのようにほめていますか？</p> <p>いい子だね！ すごいね！ えらいね！</p> <p>→ 漠然としすぎて伝わりづらくわかりにくい</p>  <p>6</p>
<p>では、どのようにほめればいいのでしょうか？</p>  <p>例えば...</p> <p>『おかあさんが頼んだことをしてくれて、ありがとう。』</p> <p>『部屋をきれいに片付けてくれて、すっきりして気持ちがいいね。』</p> <p>このように具体的に褒めることが重要！</p> <p>7</p>	<p>なぜ、具体的にほめるといいのでしょうか？</p>  <p>「具体的な行動」をほめる</p>  <p>8</p>
<p>なぜ、具体的にほめるといいのでしょうか？</p>  <p>「具体的な行動」をほめる ↓ 子どもは、どんな行動をすればよいかを学べる</p>  <p>9</p>	<p>みんなでチャット！</p>  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己紹介 名前、子どものこと、夏休みの予定</li> <li>2. 話を聞いて思ったことを自由に話そう 最近、ほめたことは何ですか？ ほめてみようと思うことは何ですか？</li> <li>3. 夏休みを迎えて気になること</li> </ol> <p>10</p>

図3 パワーポイントの一例

(平均11.0名/回)であった(表1)。

ブレイクアウトルームでは、FTの数によるが2～3グループに分かれ、1グループはスタッフを入れて3～6人/回であった。グループ分けでは子どもの年齢や性別を考慮した。

2020年9月より平日開催の際は個人だけでなく、<sup>宗教法人</sup> 蓮成寺 氷上保育所が行う子育て支援拠点である「育ちの部屋」(<http://www.hikami-hoiku.jp/roomgrowth/>)ともZoomでつないで行った。常駐する子育て支援者(以下、支援者)3名と子ども連れの母親たちが参加者となった。グループワークには、第4、7、9回の3回のみ本NPOよりFTを派遣して、話し合いのサポートを行った。支援者もFTとしてファシリテーションを一緒に行った。参加者からの感想やコメントは、支援者が直接参加者や支援者の話を聞いて紙面上に

まとめた。

第12回の2021年6月からは、思春期をテーマに取り上げ、隔月で3回実施し、計15名の参加があった。思春期の子どもの特徴や親子関係の在り方、有益なコミュニケーションの取り方について提示した。PPTは思春期に関する書籍を基に著者とスクールソーシャルワーカーであるFTと共同で作成した。

(2) 会の実施における参加者およびスタッフ等の感想について

感想は表2にまとめた。

保護者からは「他の参加者と話すことでストレス軽減や安心感の獲得につながった」「悩みの共有は同様な体験をした人、特に先輩保護者からの話が参考になり、問題解決につながった」との声が多かった。また、PPTを用いたセミナーでは

表2 子育てチャットルームに対する感想(まとめ)

保護者の感想	「育ちの部屋」支援者の感想
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ではなかなかオンラインができないので、参加して良かった。</li> <li>・子どもがいたのでゆっくり聞けなかった。もっと話が聞きたかった。</li> <li>・家にいると悩む方なので、皆さんの話を聞いて、みんな悩んでいるんだ、一人ではないんだと思えた。</li> <li>・疑問に思っていたことが聞けて良かった。</li> <li>・悩むことが多いのですが、先輩お母さんの話を聞きながら、私もその時が来たらできるようになるんだらうなどと思えるようになって、気持ちが少し楽になった。</li> <li>・子どもと離れて聞きたかった。みんなの話を聞いて、そう言う時期もあったなと思出す事ができて良かった。</li> <li>・勉強になった。帰宅後、頭の整理をしたい。</li> <li>・話を聞いてもらえる、また聞ける良い機会になった。</li> <li>・ドーパミンが出る褒め方を心がけたい。</li> <li>・気持ちが軽くなった。</li> <li>・具体的にほめる+ねぎらうことが大事だと気づけた。</li> <li>・皆さんのお話を伺って新しい発見があり、また個人的な質問にも具体的にアドバイスいただいても勉強になった。</li> <li>・子育ての楽しいことも困ることも、ここでシェアでき、前向きに子育てを頑張っていけそう。いっぱい笑えてすっきりした。また参加したい。</li> <li>・このような場所で話をすることも、手本になりあえるんですね。</li> <li>・次回も楽しみに、それまでに良い報告ができるように頑張ろうと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めてのリモート体験ができて良かった。お母さんの言葉をまとめて発表したが、お母さんたちの言いたかったこと、聞きたかったことを上手く伝えられなかったのではないかと反省している。</li> <li>・お母さん方それぞれの悩みに鈴木先生からすぐにアドバイスをいただくことができ、とても良かったと思う。また参加者の方々の意見も参考になった。</li> <li>・オンラインを使ってこのようなことができるのかと新しい発見だった。</li> <li>・実際に自分で体験してもらって、このような方法を知ってもらえる良い機会になった。</li> <li>・子どもの相談をしているお母さんの表情を見て、親は本当に悩みながら過ごしていると実感した。</li> <li>・グループワークがよかった。共に悩むお母さんの声を聞き、対処法を考える。ファシリテーターの鈴木先生が繋いでくださる学び合い。現代社会で孤立しがちなお母さんたちにとって必要な場だと感じた。</li> <li>・痼癢をおこす子にどう対応すれば良いのかと聞かれたら、つい具体的な対応について考えてしまいがちだが、まずはその子の生活環境(睡眠、疲れが溜まってないか、その子との時間が取れているかなど)に目を向けて考えてみる事も大切だと気付いた。聞かれると何かアドバイスをしなければと思ってしまいがちだが、これからは一緒に考える事を大切にしていきたい。</li> </ul>



多くの学びをもたらしたことが示され、子どもとの具体的な関わり方に加え、子育てや生活習慣、夫婦関係に関する考え方を学ぶことで、親自身の行動変容へのモチベーションになったことがうかがえた。ほとんどが前向きな感想で、再度参加を希望する声が多く上がった。

Zoomで参加している支援者からは、初めてオンラインを用いた活動を経験し、新たな支援方法に驚きと共に多くの学びがあったとの声が上がった。また、参加者から上がった質問の回答を専門家から聞けることや、テーマのある話し合いによって新たな気づきや他人から学ぶことも多いのではといった意見も見られた。一方でグループでの話し合いがうまく進められたか分からず、FTとしての役割への戸惑いも聞かれた。

また、実際の開催にあたり、本NPOのFTや筆者、支援者がファシリテートする際の難しさが浮き彫りとなった。本NPOの研修会で「対面であると雰囲気伝わりやすく、沈黙する時間があってもあまり気にならないが、二次元のオンライン画面であると非常に気になり、スムーズに対話が進まない」と参加者を不安にさせるのではないかと、「ブレイクアウトルームにおける自由討論でのファシリテーションでは、発言一言からさらに詳しく話を聞き出し、テーマに沿って話を膨らませ、すべての参加者に平等に話をする機会を与えることが望ましかったができていなかった」などの声が寄せられ、プレッシャーを感じるFTもいた。

#### IV. 考察

子育てチャットルームは、Zoomを用いてコロナ禍でも保護者に子育てについて学ぶ機会と交流の場を提供することを目的に行った。トリプルPの子育て技術を習得することで家庭内の危機に対処し、子どもの養育環境を向上させることが期待された。

参加者は1グループが2～5人程度であり、運営が管理能力を超えると感じたことはなかった。しかし、参加者数が全体の満足度に影響すると考えられた。知らない者同士でZoomで話すとなると、1グループにFTを除いて5人では話しづらく、満足度も低くなる。1グループ3人が一番話も広がりやすく、1人当たりの時間も多く取れる

ので、満足度も高いと考えられた。参加者数に合わせてFTを確保することが重要である。

グループ内のメンバー選びは課題である。幼稚園児と小学生、中高生では子育て上の悩みが異なり、男女で親子関係やコミュニケーションの仕方などが異なる。それぞれのグループ毎に、流行りの共通した話題で盛り上がりが見られ、保護者同士でそれぞれの子育てに関する情報提供やアドバイス等をし合う場面も見られた。異年齢の子どもを持つ保護者同士では、ピアカウンセリングとしての役割ができるという発見もあり、コロナ禍での新たな子育て支援形成の役割を果たしていると推察された。

PPTづくりは時間と労力もかかり、担当FTの負担になるが、参加者も何ヶ月も前に学んだことは忘れてしまうので、すでに作成したPPTを修正加筆しながら、繰り返し利用できると考える。参加者が異なれば、話し合いの内容も異なり、学びも新鮮になる。また、思春期に関する内容は、2021年6月より始めたばかりである。思春期をターゲットにした学びの場や交流会は少ないので、内容を充実させ、魅力的な連続プログラムに発展させていきたい。そのためには、現在FTである教育関係者と共に教材を作成しているが、さらに体系的な学習と工夫が必要であると考えられる。

また、子育て支援拠点の「育ちの部屋」との試みは、新規的なものであったと考える。ハードな面は支援者がWi-Fi環境を町の補助金を用いて用意し、既存のパソコンとプロジェクターを使用した。ソフト面では、本NPOと連携し、サポートを受けることで、Zoomによる子育てチャットルームに馴染みの支援者と保護者と一緒に参加できたからである。

子育てチャットルームは、Wi-Fi環境の整備やZoomという新たなコミュニケーションデバイスの使用が必要であるため、個人で参加が難しい人も多い。しかし、「育ちの部屋」に来ることにより技術的な課題を心配することなく、学びの機会を得ることができていたようである。このことから、対面とオンライン双方のメリットを享受できる、まさにハイブリッド型の子育て支援モデルの構築の可能性が示唆された。

月に一度のNPOの研修会では、オンライン交

流会でのファシリテーションの振り返りを何回か行っており、次回に活かすよう記録して、FT全員に周知している。しかし、知識の積み重ねと入念な準備に加え、見守られながらの実践も必要である。ただ、筆者が1つのグループの担当FTになっていると、その他のブレイクアウトルームに行くこともできず、対面と違って隣のグループの雰囲気もわからず、遮断された世界でフォローも難しい。この点については、FT二人を配置するなど対策が考えられる。

開催日時に関しては、最初は土曜日に開催していたが、子育て支援拠点「育ちの部屋」が平日しか参加できないため、平日に変更した。その後、参加を希望しているが平日は仕事のため参加できないとの声もあり、週末開催に変更した。しかし、時間帯によっては子どもの習い事の送迎などがあり、参加が難しい保護者もあり、時間設定は課題となった。また、毎回、様々な方法を用いて周知活動を行ってはいるが、新規参加者を増やすのは難しいと感じた。効率的で有効な周知方法を検討する必要がある。今後、TwitterやInstagramなど、若い世代がよく使用しているSNSも考慮したい。

## V. 結語

コロナ禍により従来の子育て支援の多くが制限されたが、新しい支援の方法としてZoomを用いた子育てチャットルームを企画実施した。トリプルPを用いた学びと自由な対話により満足度の高

い支援ができた。子育て支援拠点との協同開催や思春期向けのセミナーなど新たな試みも好評だった。ファシリテーションの難しさ、有効な周知方法や参加しやすい日時選択、わかりやすい教材づくりなど課題も多いが、新たな子育て支援の方法として新規的かつ意義深い活動であった。

## 謝辞

本活動の実施にあたり、ご協力いただきました宗教法人蓮成寺 氷上保育所の子育て支援拠点である「育ちの部屋」のスタッフの皆様、子育てチャットルームにご参加いただいた保護者の皆様に深く感謝申し上げます。

## 文献

- 1) 鈴木裕美, 中橋恵美子, 太田広美, 他. コロナ禍の子育て支援～香川県内の民間支援団体の取組と課題～. 地域環境保健福祉研究 2020 ; 23 : 45-51.
- 2) <https://explore.zoom.us/ja/products/meetings/> (2021年11月5日アクセス)
- 3) 加藤則子, 柳川敏彦. トリプルP～前向き子育て17の技術～. 東京: 診断と治療社 2010.
- 4) Sanders, MR., Kirby, JN., Tellegen, CL., Day JJ. The Triple P-Positive Parenting Program: a systematic review and meta-analysis of a multi-level system of parenting support. Clin Psychol Rev 2014 ; 34 : 337-57.

子どもの教養	図書/失敗図鑑 すごい人ほどダメだった！
	図書/都道府県別 につぼんオニ図鑑
	図書/おとなを動かす悩み相談クエスト
絵本	図書/すみっコぐらし ここがおちつくんです
	図書/すみっコぐらし このままでいいんです
	図書/古井戸に落ちた口バ
	図書/はやくはやくっていわないで
	図書/おこりんぼママ
	図書/にげてさがして
	図書/すてきなひとりぼっち
	図書/いいこってどんなこ？
	図書/ちいさなこえがみらいをかえる！
	図書/せかいはふしぎでできている！
	図書/しっばいなんかこわくない！
	図書/おキモチや
	図書/パパラギ
	図書/パパと怒り鬼 ー話してごらん、だれかにー
子どもの心	図書/「自己肯定感低めの人」のための本
	図書/精神科医・モタ先生の心が晴れる言葉
	図書/大丈夫じゃないのに大丈夫なふりをした
	図書/子どもたちのビミョーな本音
	図書/大丈夫じゃないのに大丈夫なふりをした
	図書/子どものためのマインドフルネス
	図書/子どものためのマインドフルネス<2> おはようからおやすみまで
	図書/心配ないよ、だいじょうぶ (おたすけモンスターシリーズ 1)
	図書/きみは、きみのままでいい (おたすけモンスターシリーズ 2)
	図書/きみは、つよいんだよ (おたすけモンスターシリーズ 3)
	図書/「ちがう」って、すてきなこと (おたすけモンスターシリーズ 4)
思春期	図書/10代のためのもしかして摂食障害?と思った時に読む本
	図書/ルポ保健室 子どもの貧困・虐待・性のリアル
	図書/10代のための疲れた心がラクになる本
いじめ	図書/教室の悪魔(ポプラ文庫)
	図書/いじめのある世界に生きる君たちへ
不登校、ひきこもり	図書/学校へ行けない僕と9人の先生(ACTION COMICS)
	図書/不登校・ひきこもりを生きる
	図書/「不登校」「ひきこもり」の子どもが一步を踏みだすとき
	図書/ひきこもりの真実
	図書/学校へ行けなかった僕と9人の友だち(アクションコミックス)
図書/これで解決！ 母子登校	
貧困	図書/子どもと貧困 増補版
	図書/子どもの貧困 日本の不公平を考える
	図書/子どもの貧困<2> 解決策を考える
	図書/「なんとかする」子どもの貧困 (角川新書 K-158)

HSC	図書/敏感すぎて生きづらい人の明日からラクになれる本
	図書/HSCの子育てハッピーアドバイス
	図書/敏感っ子を育てるママの不安がなくなる本「立ち直る力」育成編
ギフト	図書/才能はみだしっ子の育て方
子育て	図書/抱きしめよう、わが子のぜんぶ
	図書/おかあさんになるってどんなこと
	図書/5歳からの哲学 考える力をぐんぐんのばす
	図書/男の子の脳、女の子の脳
	図書/男の子の育て方
	図書/女の子の育て方
	図書/ひとりっ子の育て方
	図書/カリスマ保育士てい先生の子育て〇×図鑑
	図書/孫ができたらず読む本 子育て新常識から
発達障害	図書/1日5分!教室で使えるコグトレ
	図書/色弱の子どもがわかる本 増補改訂版
	図書/跳びはねる思考 会話のできない自閉症の僕
	図書/あいちゃんのひみつ ダウン症をもつあいち
	図書/発達障害 僕にはイラつく理由がある!
	図書/算数の天才なのに計算ができない男の子のはなし
	図書/ボクはじっとできない 自分で解決法をみつけ
	図書/「脳コワさん」支援ガイド(シリーズケアをひらく)
	図書/発達障害の子に「ちゃんと伝わる」言葉かけ
毒親	図書/母がしんどい(角川文庫 た88-1)
	図書/毒親サバイバル
	図書/「毒親」の正体 精神科医の診察室から
	図書/気づけない毒親
夫婦	図書/ほしいのは「つかれない家族」
	図書/対人関係療法で改善する夫婦・パートナー関係
	図書/私の夫は発達障害?
ネット依存	図書/ゲーム・ネットの世界から離れられない子どもたち
	図書/ネット依存・ゲーム依存がよくわかる本
	図書/ネット・スマホ攻略術(1時間で一生分の「生きる力」)
支援者向け	図書/神田橋條治スクールカウンセラーへの助言100
	図書/学校で困っている子どもへの支援と指導
	図書/全国不登校新聞(令和3年4月1日から令和4年3月15日号分)
大人の教養	図書/人は話し方が9割
	図書/奇跡のバックホーム
	図書/スタンフォード式 最高の睡眠

そのひと言が居場所をつくる

「ありがとう、助かったよ」

私はここにもいいんだ

「大丈夫、そのままでもいいよ」

私はこのままでいいんだ

「生まれてきてくれてありがとう」

私は生きていていいんだ

安心して生きる居場所は  
生きるエネルギーをくれる

添付1



三木町補助事業「健やかあすなるプロジェクト」  
により香川大学がポスターを作成しました。

詳しくはこちら→  
NPO 法人親の育ち  
サポートかがわ



# 反抗期で片づけけないで。



聞いてほしい。

「あなたはどうしたい？」

「私はこう思う」「僕はこうしたい」

安心できる相手だから言える。

人に合わせてばかりいたら、

決められたことばかりしていたら、

「自分」になれない、見つけられない。



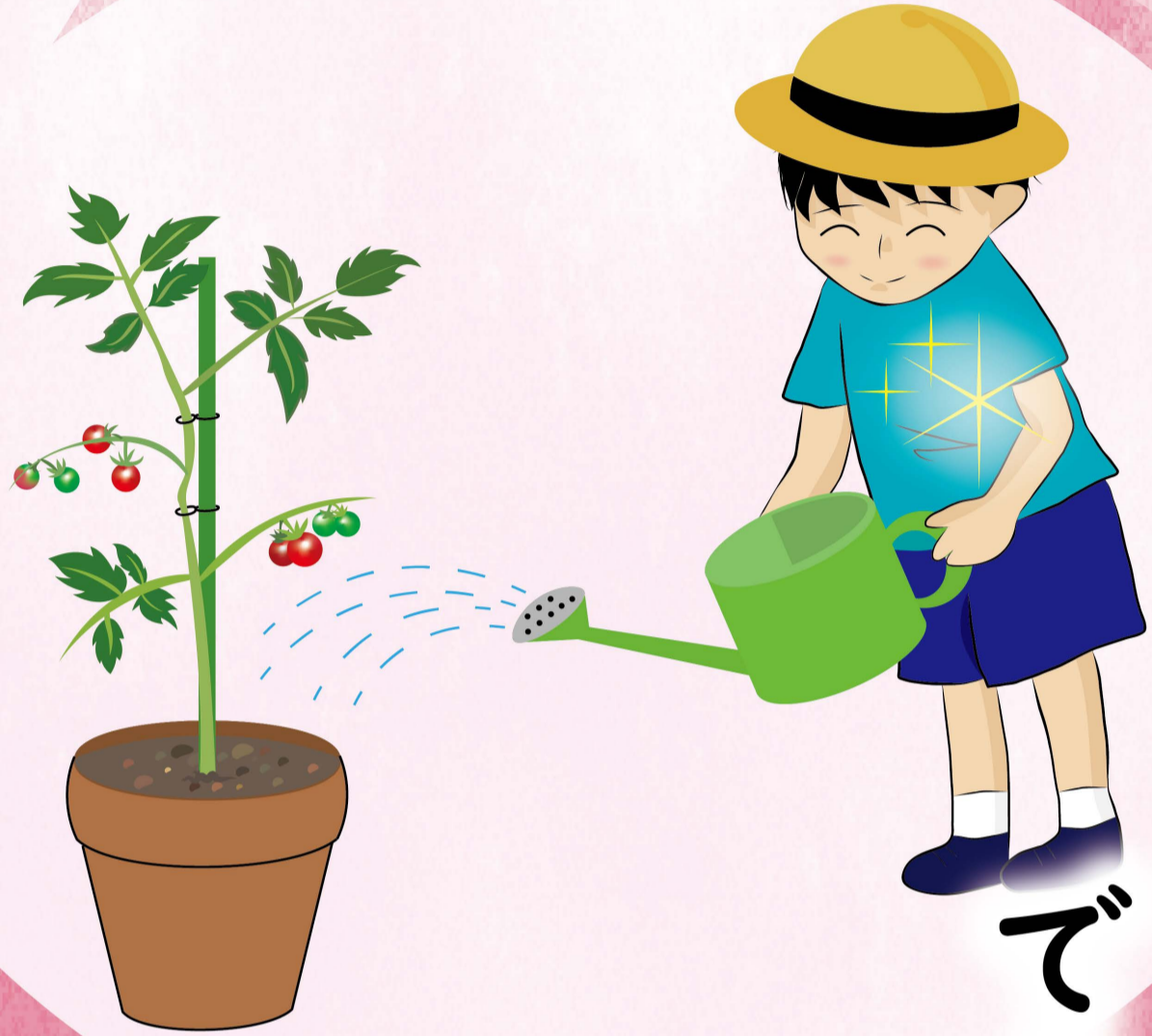
三木町補助事業「健やかあすなるプロジェクト」  
により香川大学がポスターを作成しました。

三木町 × 香川大学  
すこやかあすなる  
プロジェクト

詳しくはこちら→  
NPO 法人親の育ち  
サポートかがわ



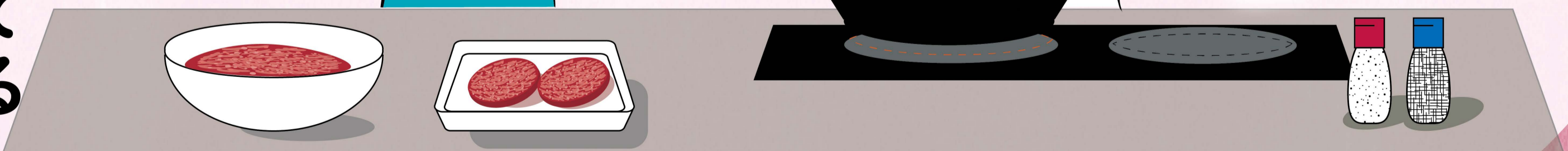
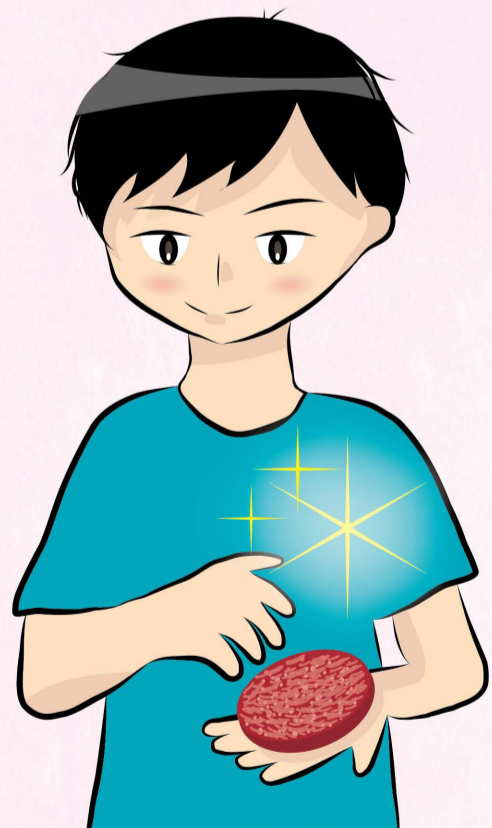
おもしろそう！  
楽しそう！  
やってみたい！



やっ  
て  
ご  
ら  
ん  
！  
  
で  
き  
る  
ま  
で  
待  
っ  
て  
る  
よ

た  
く  
さ  
ん  
の  
出  
会  
い  
と  
体  
験  
が

と  
き  
め  
き  
ひ  
ら  
め  
き  
や  
る  
き  
を  
育  
て  
る



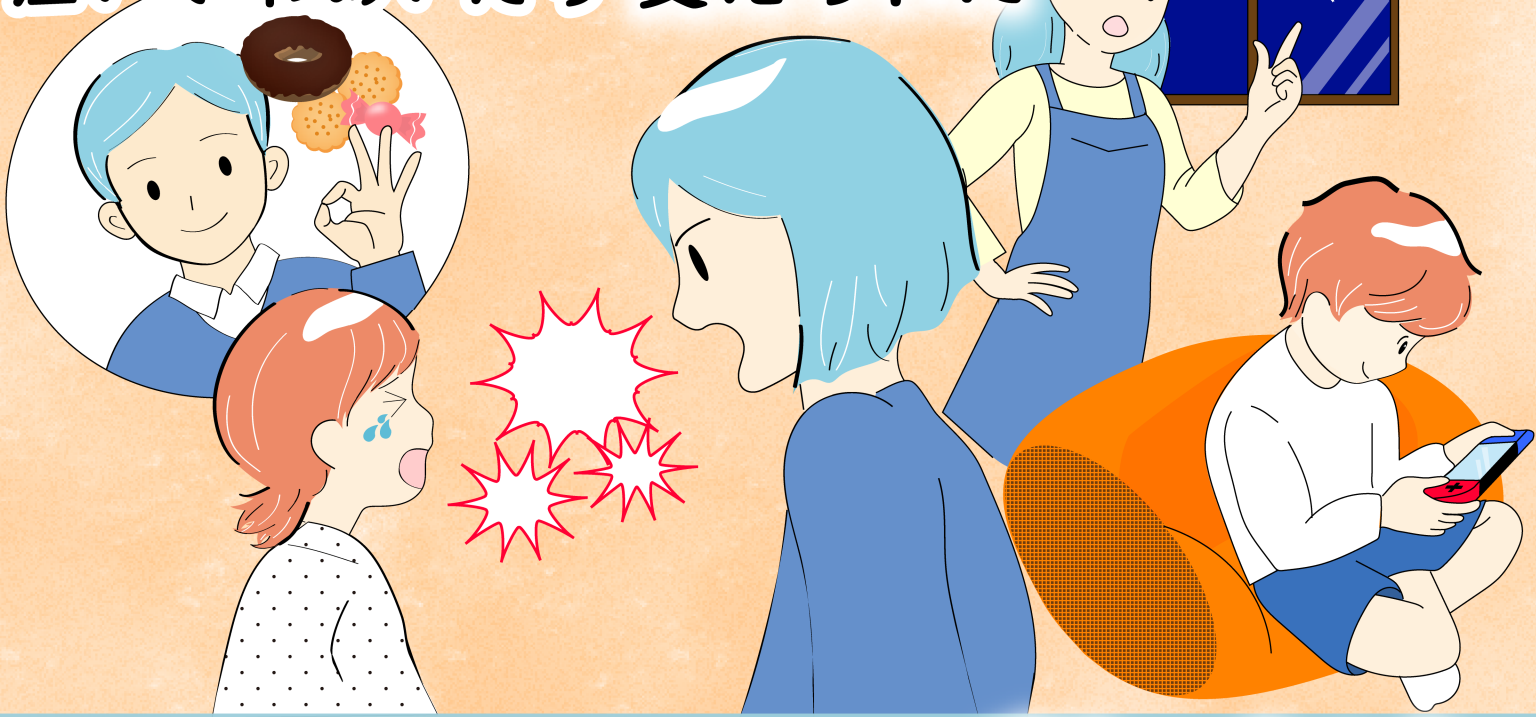
三木町補助事業「健やかあすなろプロジェクト」  
により香川大学がポスターを作成しました。

詳しくはこちら→  
NPO 法人親の育ち  
サポートかがわ

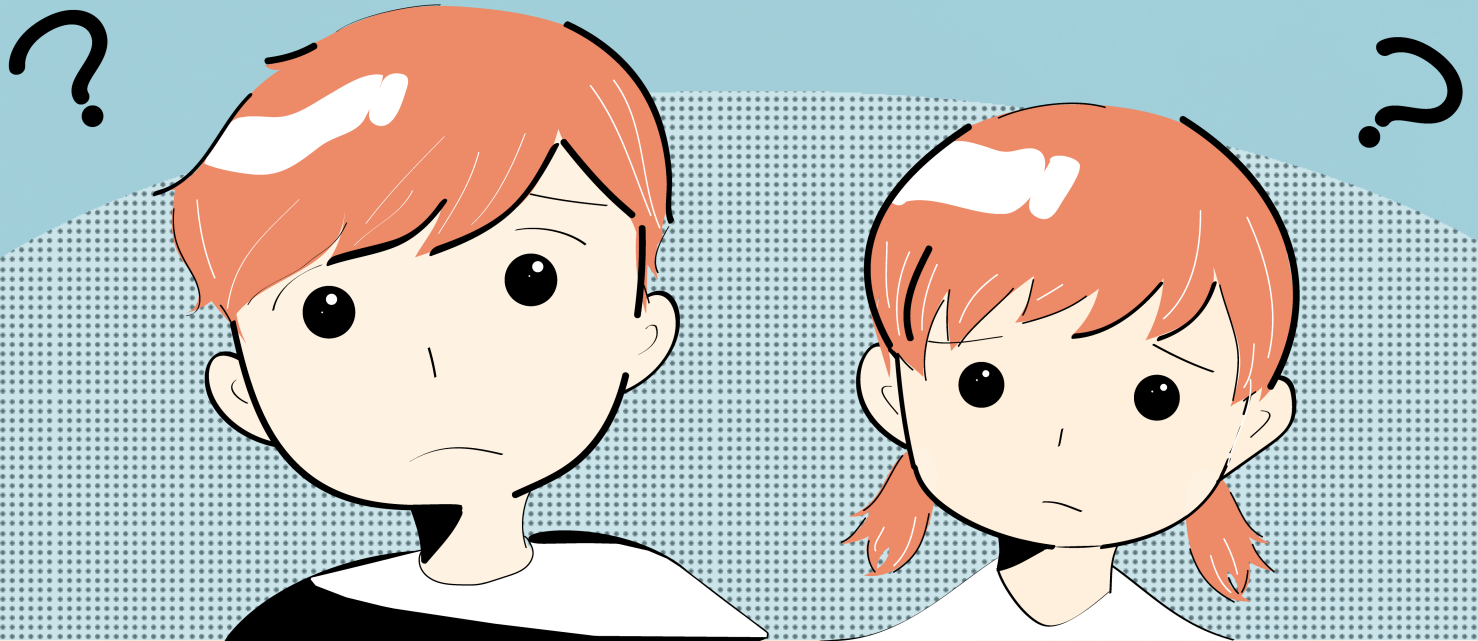




ルールは守れと言うけれど  
泣いてわめいたら 変えられた



お母さんの機嫌によって 変わっちゃう  
お父さんはよくても お母さんはダメ



ぼくたちはどうすればいいの？  
教えてほしい いつも変わらないルールを





完ぺきでなくても「がんばっている」ことに気づいてほしい

「何がどういいか」を言葉にしてほめてくれたら

《いいね！スタンプ》が頭の中に押されて

「もっとやってみよう」って気持ちになる…不思議だね



三木町補助事業「健やかあすなろプロジェクト」により香川大学がポスターを作成しました。  
作画：高松工芸高校美術科 名越晟吾

詳しくはこちら→  
NPO 法人親の育ち サポートかがわ おやさほ



印刷

ハイスクールプロジェクト

こども課：2021/11/11

「健やかあすなるプロジェクト」より「ハイスクールプロジェクト」のお知らせ

三木町では、香川大学と子育てに関する連携事業である「健やかあすなるプロジェクト」を通じて、今年度は新たに「ハイスクールプロジェクト」を実施しました。

「ハイスクールプロジェクト」では、全日制高校以外の多様な進路を紹介しており、自分の未来に不安を感じている子どもと保護者の方に対して、多くの進路選択があることをお知らせし、未来に希望と安心を持ってもらえることを目的としたものです。

「ハイスクールプロジェクト」の冊子には子どもへの応援メッセージ、保護者の方へのアドバイス、学校選びや見学の際のポイント、高卒認定試験などに加え、多くの体験談を掲載していることが特徴です。

この冊子をきっかけに、先生方や保護者の方が子どもと前向きな会話ができますよう、また子どもが未来を楽しみに思い描くことができますよう願っています。

なお、冊子は三木町内だけでなく県内の教育関係施設等へ広く配布しているほか、下記よりPDFをダウンロードすることができます。



 [ハイスクールプロジェクト冊子\(PDF: 8.86MB\)](#)



PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe社が提供するAdobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。(無料)

担当課

こども課 母子保健係

〒761-0692 香川県木田郡三木町大字氷上310番地

Tel:087-891-3322

✉ [担当課へのご質問・ご意見](#)

閉じる